



@幸せな贈り物

5117

おとな、こどもが心配なのではなく
未来が心配です。

インチョンのある小学校では、昨年末に教師五人が一度に名誉退職を申請しました。「教師の権威が崩れて、学生の指導が難しくなっていて、子どもを教えても教え甲斐がない」ということがその理由でした。首都圏のある小学校の教頭は定年を2年残して最近、名誉退職をしました。彼は、昨年5年生2人が校内で起こした性暴行問題を收拾する過程で、男子学生の保護者に喉首をつかまれ、女子学生の保護者にひざまずく侮辱を受けました。精神的衝撃で不眠症に呼吸困難症状まで起こしたこの教頭は「30年の努力が精神病だけ残した。小学生と、通り過ぎるおとなだけ見ても息が止まるようだ」と話しました。教権の墜落で教員としてのプライドを失って、この教頭のように教壇を離れる教師が大きく増えていっています。

最近、韓国教育科学技術部と市道教育庁によれば、2011学年度に名誉退職を申請した小・中・高教師は5,117人で史上最高であったと明らかにしました。名誉退職申請者が2009学年度3,227人から2010学年度に4,342人に増えて、もう5,000人を越えたのです。特に学校暴力が激しくて、思春期の学生が立ち向かう場合が多いからなのか、中学校の教師の名誉退職申請が大きく増えました。2009学年度に934人、2010学年度に1,241人で、昨年には1,699人で2年で82%も増えました。同じ期間、小学校は45%、高等学校は55%増加しました。

名誉退職急増からできる空席は、期間制教師が満たすようになります。国公立学校は行政安全部の公務員定員規定に縛られて新規正教師を任用しにくいからです。そして、私立学校は費用節減のために期間制教師を増やそうとしています。期間制教師が正規職教師に比べて水準が大きく落ちることはないのですが、学生と保護者が無視する傾向が強く、学生指導に困難を経験する機会が多いと言われています。校内暴力が相対的に激しい小学校5学年～中学校2学年の担任を正規職教師たちが避けて、期間制教師が代る場合も大きく増えました。



ソウル大師範大を卒業して3年間中学校2ヶ所で開催制国語教師で働いていたBさん(29・女)は「年が若い女性教師である上に期間制身分なので、激しい声を多く聞いた」と話しました。叱られた不良グループの学生が「教師でもないのに、なぜえらそうにするのか」と立ち向かってきたり、勉強をがんばれと言ったところ「ソウル大を出てきて契約職」という冷やかしにあいました。彼女は妊娠と同時に学校を止めながら「再び教壇に立ちたくない。こういう状況ならば塾の講師がはるかに良い」と言いました。韓国教総が昨年12月全国小・中・高教師201人を対象に質問して調べた結果、80.6%162人が「学生人権条例と体罰禁止などによる教権墜落と教室環境変化」を名誉退職増加理由に選びました。健康問題は1.5%3人、個人事情は4.5%9人に過ぎませんでした。

毎年増えている教師の「最後の授業」を見ながら、まことの師匠とまことの弟子、まことの教育の姿を見せた〈死んだ詩人の社会〉(Dead Poets Society)を思い出すのは、それでも先生が希望であるためです。どんな善や大層な教育哲学や政策も、1人の「良い先生」とは変えることができず、教育の質は決して教師の質を越えることはできません。教師は未来を育てる道案内で、次世代は私たちの未来の現住所です。それで、私たちは決して未来を放棄できないのです。

新しいはじまりは、根源から変わらなければなりません 変質と変化の違いをご存知でしょうか。うわべを変えても人生の本質を変えることはできず、時代の未来を変えることはできません。生活の便利さだけをもたらす知識ではなく、お互いにまことの幸せをもたらす知識と知恵がなければ、まことの教育は出てくることはできません。聖書は、まことの知恵のはじまりは、神様を恐れることだと語っています。(箴言1:7) なぜなら、まことの知恵は、世の中の知識以前に、人間が解決できない問題を解決する霊的知識から出発するからです。人間の本質を変える霊的な知識、それがまさに聖書が語る「福音」です。

聖書は、魚は水の中で生きていて、木が土地に根をおろして生きていくのが当然の原理のように、人間は神様とともにいてこそ幸せになる霊的な存在として創造されたと語っています。こういう霊的存在

である人間が神様を離れてから、すべての問題がはじまり、のろいと災いと苦しみが入ってくるようになりました。子どもの教育のためにすべてのものを投資してもがくの、なぜ私たちの次世代は崩れていきつつあるのでしょうか。また成功したのになぜ自殺の道を選択しなければならないのでしょうか。教育が足りないからではありません。根本的な原因は、神様を離れているからです。さらに驚くべき事実は、こういう不幸をもたらす張本人が別にいるのです。聖書は、その名前をサタンあるいは悪魔、悪霊だと告発しています。サタンは、人間が神様を知らないようにさせて苦しめて滅ぼします。霊的存在である人間が神様を離れた瞬間、水を離れた魚のように喉が渇いてもがいて、鳥かごに閉じ込められた鳥のように人生が苦しくて、根が抜かれた木が実もなく枯れていくしかないように、サタンがもたらす理解できない葛藤と苦しみ、運命の災い、のろいを避けることができないのです。いくらもがいても、人間が解決できないので、神様は人間の問題を解決してくださるために「キリスト」を送ると約束してくださいました。

イエス・キリストは、神様を離れたすべての人間が神様に会うことができる唯一の道となられたまことの預言者です。イエス・キリストは、十字架で私たちの罪の代わりに死んで、復活されることによって私たちのすべての罪を解決して、のろいと災いから解放させてくださったまことの祭司です。イエス・キリストは、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼされた真の王です。このイエス・キリストを信じて自分の心に受け入れれば、神様が永遠に私とともにおられる神様の子どもの身分を得るようになり、本来の人間が味わった祝福と権威を回復するようになるのです。これが幸せな人間のアイデンティティーと未来を回復する根源的なはじまりです。絶対に難しくはありません。信じれば良いのです。神様が信仰をプレゼントでくださったのは、値段が安いためではなく、その値段を測ることができないからです。

あなたは幸せでなければならない大切な人です。

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。」エペソ人への手紙2:8

なぜ キリストでなければならないのでしょうか

サムソングループの初代会長だったイ・ビョン Chol 氏は、他界する1ヶ月前に24個の霊的な質問を入れてカトリックの神父に手紙を送ったのですが、そこに対する答えを書いた本が24年ぶりに出刊される予定という記事を見ました。24個の質問の中に「神が人間を愛しているとすれば、なぜ苦しみと不幸と死を与えたのですか」と尋ねていました。この質問を投げた当時、彼は肺ガン宣告を受けて闘病して2年目でした。そこに対して神父が答えているのに、もしかしたら私たちが神を愛することができる重要な通路が苦しみだと言いながら、イスラム最高の神秘主義詩人ルミの文を引用していますが「時に私たちが助けようと、その方は私たちをみじめにさせる。水が流れる所であれば、どこでもいのちの花が咲く。涙が落ちる所であれば、どこでも神の慈悲があらわれる。神は私たちに自由意志を与えた。それで、私たちは選択をする。神を信じるのか信じないのかさえも選択の対象だ。苦しみの後には選択があって、その選択の後には自由意志がある」と言いました。それとともに、苦しみはおもに自由意志をとんでもなく使った時にくるので、一種の警告のサインであり、苦しみと不安と死は、正しい軌道を見つけるための信号だと答えました。

最近、無神論を主張してきたオックスフォード大学の世界的な進化生物学者リチャード・ドーキンス (Clinton Richard Dawkins) 教授と英国聖公会の首長ロアン・ウィリアムス・カンタベリー (Williams Rowan) 大主教が、神の存在をおいて交わした対話でも「神が創造主ならば、なぜ人間に苦しみを与えるのか」という質問に答えて、「難しい問題だ。しかし、神がなぜより大きい困難を与えないだろうかと考えてみなければならない」と言いました。

苦しみがあっても、なくても、人間が一生の歩みの中で苦しみの中を生きていっていることだけは否めない事実です。それなら、苦しみがなぜ来るのでしょうか。そして苦しみを解決する道はないのでしょうか。それが聖書が語ろうとしている核心の主題です。多くの人が宗教はみな同じだと思ったり、善を行うのが宗教の目的だと話します。力を注いで他の人々に徳を積めば、苦しみが解決されると話したりもします。しかし、聖書は人間の根本的な苦しみの原因と解決策をととても簡潔、明快に提示します。人間の苦しみの根本的な原因は、神様でも人間でもありません。どこでも教えない不幸の霊的な背景「サタン (Satan) の働き」であることを明確に明らかにしています。神様を離れた人間は、自分が知っていても知らなくても、そのたましいがサタンに縛られています。それで一生、願ってもいないのろいに陥って、苦しめられ、さまよって偶像崇拜、先祖供養、お守り、お祓い、雑神の宗教などを尋ね歩きます。結局、この世を離れるときは、もっと大きい苦しみだけが待っているのです。サタンの働きによって、人間に迫ってきた生年月日による運命と運勢、のろいと災い、地獄と滅びの問題を解決された方が、まさに「キリスト」であると、聖書は語っています。救いとは、サタンの手から人間を救い出すことを言います。救いとは、罪ののろいと運命から解放されたことを言います。救いとは、だれによっても滅ぼされることはない永遠な神様の子どもになったということです。そのことをなさったの方がまさに「キリスト」であるということで、そのキリストがまさに「イエス」だと聖書は明らかにしています。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます!」(使徒の働き 16:31)

神様の子どもになる 受け入れの祈り

愛の父なる神様。私は罪人です。今まで神様を離れ、サタンの支配の下に縛られて、奴隷のように生きて来ました。しかし、今、この時間、イエス様を私の救い主、私の神様、私のキリストとして受け入れます。イエス・キリストは、神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕かれ、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださったキリストであると信じます。いま、私の中に入って来てくださり、私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どもの 毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



なぜ聖書ですか？

人の人格は知、情、意で構成される。知識と感情、そして意志で代弁される人格は、個人差が大きくて、どんな人格が良いのか悪いのかを計ることは簡単ではない。しかし、人間、世の中には、普通の人の人生を成し遂げる常識が、どんな場合でも存在するはずだ。したがって、今日より良い生活のために、ある時代の人々は、子どもの教育に熱を上げて、学習の機会をつかむことを望んだ。

古代の文字は、たいてい部族間の条約を現わすための方法で考案された文字であり、人生が多様化しながら豊かになって、文字を通して文化が発展した。ここに宗教の祭事が加わり、学問的に発展して今日に達している。文字はその時代を生きていく人々の普遍的な生活の彫刻だ。文字の保存のために試みられたのが、石と木を利用した多様な彫刻であったし、泥に文を書いて陶磁器のように焼いた形態で保存したりもして、竹に書いたり羊皮紙に書いたが、最高の発明品はパピルスを通した紙だった。本という本来の意味を持ったのが聖書だ。1,600年あまりの間に40人あまりの著者によって多様な筆致で記録されたが、一貫した主題、すなわち、人間の滅びと救いという構造を持っている特異な本が、まさに聖書だ。すべての宗教には伝えられてきた資料があるが、本を持った宗教だけが高等宗教だと宗教学的には区分されている。人間の人格が重要だが、人間には人格を越えた、すなわち常識を越える存在の状況、すなわち霊的なものがある。人間の生活で解決しにくいことと、理解し難いことが、すべて霊的なことである。宗教はこのようにあのように、人生の問題に多様な方向を与えられる良い教材になるが、たましいの価値と霊的事実を正しく説明することはできない短所がある。さらには、人間の失敗の根本背景にな

るサタンの存在と実体に対しては、正確に取り上げて論じられずにいる。かえって簡単な霊的事実を神秘によって複雑にしまして道に迷った人々が真理を探すので、より一層難しくさせている。今の聖書は、印刷術の発達で一冊でまとめられているが、古代から伝えられた本来の聖書は66巻が別々の巻に分けられていた。人々が記録したが、私たちはそれを神様のみことばだと呼んで信じるのだが、その理由は、古代の文書だが、それが未来を預言して、その預言が成就した事実を記録した本として存在しているため、驚くべきことに、その聖書は今日も記録されたみことばそのままの成就が、今でも進行している。人間の人格を成し遂げる根本の上でたましいの価値はかなり重要な位置を持つ。たましいの価値をないがしろにして、宗教は世を惑わし、民を欺いて惑わすことで、宗教化された共産主義は肉的な存在だけを認めるのだ。自然の世界の中で、人間に必要なすべてのものが地球の上にはある。

しかし、たましいの必要のための存在を説明するのは、ただ聖書だけだ。人間に救いが必要だという事実と、救いの主体になるキリストが存在して、その方を信じれば人間の価値が回復するので、救いの成就が成されるという根拠は、ただ聖書だけで話している。ある者はこれを独善だと話すかもしれないが、それは救いの必要を感じるができないから、そう言うのかもしれないが、今、ただちに救いが必要な飢え渴いた人には、このように単純でやさしい話が福音である。したがって、今、この時代の最高のベストセラーがまさに聖書なのである。

チョン・ヒョングク(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまでどうぞ